

■ 修士論文要旨

環境問題に対する中国自動車企業の経営方針

— 外国自動車企業から学ぶ環境経営のあり方 —

Management Policy of China Motor Corporation to Environment Problems

— Environment Management Study from Foreign Motor Corporation —

神奈川大学大学院 経営学研究科

国際経営専攻 博士後期課程

白 羽

BAI YU

■ キーワード

環境、自動車産業、トヨタ、第一汽車集団、政策、環境技術

地球環境問題は深刻化となってきた。これを解決するため、生産活動の主体として企業は環境経営の展開は必要である。自動車産業における、自動車の生産だけではなく自動車の使用も環境に大きな影響をもたらす。この特性によって、自動車企業の環境経営の普及はもっと重要となっている。

「環境」は企業と国の環境だけではなく世界の環境と考える。環境問題を解決するため、国際的な協力が必要である。先進国を始めて、環境への努力が世界範囲で広がっている。さらに、現在環境問題の中に、一番注目されているのは大気汚染である。そして、産業の視点から見ると自動車産業は大気汚染の大きな原因となっている。先進国大手自動車メーカーはすでに環境理念を企業経営に導入していた。そして、自らの環境経営を形成している。日本のトヨタとアメリカのGMの環境経営の実態を紹介し、中国の自動車メーカーがこれらの経験を学び、自分なりの環境経営を形成するのを目的である。

中国は社会主義の特性によって、中国企業の経営活動は国政策の影響が大きい。つまり、中国での環境経営の実施は環境に関する政策の制定は重要となっている。中国政府は環境の重要性を近年から注目されている。そして、関連法案の制定も積極に行っている。中国の現状から考えると、法案の全面性と施行は今後の注意すべきところである。

中国は自動車産業を経済発展の中堅産業として発展している。環境問題に対する中国の自動車企業は重視する態勢を現れている。現在中国は、ハイブリッド車、燃料電池車、電動自動車、代替燃料自動車とそれら部品の重要技術を研究開発しており、省エネ環境型自動車の商業化を進めている。環境技術の開発と環境理念の導入は中国自動車企業の今後の課題である。

中国自動車産業における環境経営の導入は先進国の提携が期待している。これから、技術面だけではなく環境理念などの全面的な導入が必要となっている。さらに、中国自動車企業の環境技術

の自主開発などが今後国際競争力のカギだから、企業にとって、投資の重点は環境技術の開発に傾くべきである。

中国の環境の改善、経済の発展、持続可能な社会の構築などが産業の協力と離れない。中国自動車産業における環境経営の実施はこの役割を果たすための必要な条件の一つとなっている。今後自動車企業の活躍を期待できる。

論文の構成：

本論は先進国の自動車メーカーの例を通じて、先進国の環境経営を紹介する。そして、中国の自動車産業の現状と環境法案の説明の上に、中国自動車メーカー——中国第一汽車集団の例を挙げて、中国の環境経営を説明する。これらを比較、参考して、中国自動車産業の環境へのあり方を検討する。そして、中国自動車産業の持続可能な発展と国際競争の展開にある程度助けることができることを望む。

1章は環境問題の現状と自動車産業における環境への影響を述べ、それに対して環境経営の重要性と環境経営の概念を説明する。

2章は京都会議と温室効果ガスの削減を述べ、環境管理システムの構築と境への国際の協力を説明する。環境管理システムを応用している日本の環境経営から日本の自動車産業の環境経営の歴史と現状を述べ、そして、中国自動車環境経営の手本にとって、日本のトヨタとアメリカのGM社の環境経営を紹介する。

3章は中国の環境現状と自動車産業に関する新エネルギーの開発及び政策を述べ、これからの環境政策を検討する。

4章は中国の自動車産業の概況を説明してから、中国の第一汽車集団の環境への仕組みを紹介する。そして、第一汽車集団の問題点について、説明、提案する。それを通じて、中国自動車産業全体の環境経営に提案する。

5章は中国自動車産業これからの課題と注意すべきところを説明する。そして、それに対して、問題の解決方法を提案する。中国自動車産業の全体の環境への改善を望む。